

I. 導入

おはようございます。今日から降臨節です。この季節、世界中の多くの教会がクリスマスのために心を整えようとします。アドベントリースなどで飾り付けをする教会もあります。降臨節には、クリスマスを迎えるにあたり、毎週聖書箇所をひとつ朗読し、キャンドルをひとつ灯します。こうして、イエスの降誕に思いを馳せます。こういったことは必ずしもする必要はありませんが、神の約束に私たちの目をむけてくれ、また神の愛とすばらしさを思い出させてくれます。

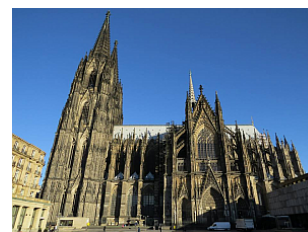


ひとつめのアドベントキャンドルは、希望のキャンドルです。テトスの聖書箇所にはこのようなことばがあります。(テトス2:13)「また、祝福に満ちた希望、すなわち偉大なる神であり、わたしたちの救い主であるイエス・キリストの栄光の現れを待ち望むように教えています。」私たちは何を待ち望んでいるのでしょうか。それは、私たちの神であり救い主なるイエス・キリストの来臨です。このお方が祝福に満ちた私たちの希望なのです。

コリント第二1:20 はこう語ります。「神の約束は、ことごとくこの方において「然り」となったからです。それで、わたしたちは神をたたえるため、この方を通して「アーメン」と唱えます。」聖書には、神のすばらしい約束が溢れています。そして、神の約束はすべてイエスにおいて「然り」です。イエスの来臨によって、神の約束は成就しました。アーメンでしょうか。アーメンです。



カレンと私は先月ドイツにいました。そこで、ケルンの大聖堂を訪れました(写真)。なんとも荘厳で美しい教会です。しかし、あまりの荘厳さに恐れをなしてしまいました。多くの人にとって、神はこのような存在です。すばらしいお方だけでも、恐ろしくて近寄りがたいのです。神は、私たちから神に近づくのを待つのではなく、イエスという人の姿をとってご自身から私たちのもとに来てくださいました。今年、クリスマスに向けて心を整え、イエスがどのようなお方かを改めて考えましょう。イエスは神であり、救い主、主であられます。ご自身がお造りになった人々のもとに来てくださり、私たちの身代わりに命を捧げてくださいました。

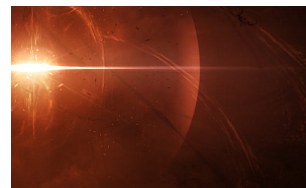


世間の人々は、2,000年前にベツレヘムで生まれた時からイエスの人生が始まったと思っています。しかし聖書の教えによると、イエスはこの世が創造される前から生きておられました。ヨハネ17:24にあるイエスの祈りのことばを見てみましょう。「父よ、わたしに与えてくださった人々を、わたしのいる所に、共におらせてください。それは、天地創造の前からわたしを愛して、与え



てくださったわたしの栄光を、彼らに見せるためです。」天地創造の前から御父は御子を愛しておられました。そこに聖霊もおられました。この世が造られる前から、父、子、聖霊の三位一体の神は、愛の輪の中に存在されたのです。愛で結ばれた三位一体の神です。

神は愛です。そして、神の愛はその被造物に表されます。その代表例が、神のかたちに似せて造られた人間です。人間は、神を愛し、互いに愛し合う能力を持っています。テトス1:2はこう語ります。「これは永遠の命の希望に基づくもので、偽ることのない神は、永遠の昔にこの命を約束してくださいました。」これはとても喜ばしいことばです。神は「永遠の昔に」永遠の命を約束してくださいました。考えてみてください。神がこの約束をされたのは誰に対してでしょう。永遠の昔には人はいませんでした。御使いもいませんでした。神のみがおられたのです。神はこの約束をご自身に対してなされたのです。つまり、人間に永遠の命を与えるという約束は、父、子、聖霊の間での約束ということです。



神は嘘をつかれません。神は約束を破られません。神は全知全能のお方です。ということは、天地が創造される前、時間の始まる前に、私たちの救いは神の約束の中で達成されたこととなります。テモテ第二1:9bはこう語ります。「この恵みは、永遠の昔にキリスト・イエスにおいてわたしたちのために与えられ、」救いの御業は、2,000年前にイエスによってなされました。イエスを信じてその約束を信頼すると、私たちそれぞれにとって救いが自分のものとなります。しかし、神の約束の中では、これらすべてが永遠の昔に確約されていたのです。

イエス・キリストの降誕とは、大いなる受肉の奇跡です。イエスがこの世に来られた時、永遠の神の御座を離れて、時空の中に入って来られ、幼子とされました。ベツレヘムの町の飼葉桶で生まれてくださったのです。ヨハネ1:1は言います。「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。」そしてヨハネ1:14aはこう教えます。「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。」これがクリスマスの物語です。神が私たちの世界に住むために、人となって来てくださったのです。それは神の御子、イエス・キリストです。では、今日の聖書箇所ヘブル1:1-8を読んで、イエスについてなんと語っているか見てみましょう。

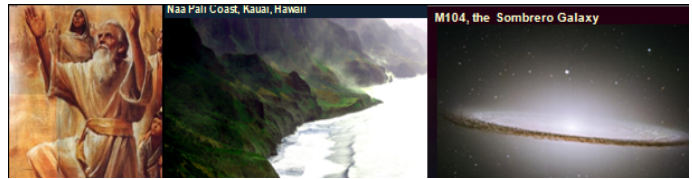
II. 聖書朗読 ヘブル1:1-8 (新共同訳)

1:1 神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、1:2 この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました。1:3 御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられますが、人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大いなる方の右の座にお着きになりました。1:4 御子は、天使たちより優れた者となりました。天使たちの名より優れた名を受け継がれたからです。1:5 いったい神は、かつて天使のだれに、／「あなたはわたしの子、／わたしは今日、あなたを産んだ」と言われ、更にまた、／「わたしは彼の父となり、／彼はわたしの子となる」と言われたでしょうか。1:6 更にまた、神はその長子をこの世界に送るとき、／「神の天使たちは皆、彼を礼拝せよ」と言われました。1:7 また、天使たちに関しては、／「神は、その天使たち

を風とし、／御自分に仕える者たちを燃える炎とする」と言われ、1:8 一方、御子に向かつては、こう言われました。「神よ、あなたの玉座は永遠に続き、／また、公正の笏が御国の笏である。

III. 教え

神はあらゆる方法で語られると聖書は教えます。旧約聖書の預言者たちは、創造主なる神についてためらいなく語りました。また、来たるメシアについて多くのことを預言



しました。ハワイのカウアイ島にあるナパリ・コーストなどといった自然の絶景は、私たちに對する神の愛を現します。私たちが喜び樂みますことを、神はご自身の喜びとしてくださるのです。望遠鏡の向こうに広がるソンプレロ銀河を見て、私たちは宇宙の神秘に圧倒されます。神の知恵と力に気づかされるからです。これらはすべて、私たちに神のことを教えてくれます。

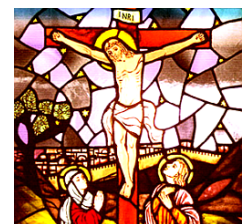


しかし、神の御子であるイエス・キリストにこそ、神と神の愛がもっとも現されています。(ヘブル1:2b)「御子によって世界を創造されました。」このみことばを読むと、詩篇19:2のみことばもまたイエスについて語っていることがわかります。「天は神の栄光を物語り／大空は御手の業を示す。」星や銀河は御子イエスをとおして、神が造られたのです。

ヘブル1:3aはこう語ります。「御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであつて、」神がどのようなお方か知りたいと思いませんか。それなら、イエスに目を向けましょう。コロサイ2:9も同様に語ります。「キリストの内には、満ちあふれる神性が、余すところなく、見える形をとって宿っており、」クリスマスの物語は、神がご自身の民のもとへ来てくださる物語です。

フィリピ人への手紙の中で、パウロは謙虚さについて教えました。そこには、もうひとつのクリスマスの物語が描かれています。フィリピ2:5-8「2:5 互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。2:6 キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、2:7 かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、2:8 へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。」

御子なる神は、ご自身を無とし、しもべの姿をとって、私たちの代わりに十字架で死んでくださいました。これは、私たちが永遠の命に与るためです。(ヘブル1:3b)「御子は、・・・人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大いなる方の右の座にお着きになりました。」

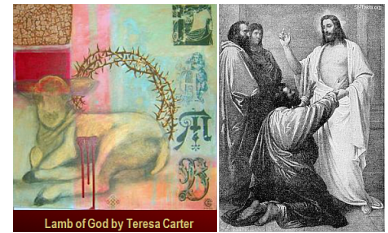


イエスは何者でしょう。イエスは、王の王、メシア、救い主、主、



インマヌエル、平安の君、世の光、道、真理、光であるお方です。イエスは神の御子です。2000年前の最初のクリスマスの朝に、この世に生まれてくださり、人の子とされました。しかし、そのずっと前から、永遠の昔から、イエスは全能なるとこしえの神なのです。

2000年前、バプテスマのヨハネはイエスを見て、こう言いました。(ヨハネ1:29)「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。」イエスを信じましょう。そうすれば、イエスが罪を取り去り、洗い清めてくださいます。クリスマスを迎えるにあたり、飼い葉桶の赤子イエスを思いましょう。このお方は、私たちの罪を取り除く神の小羊です。使徒トマスのように、よみがえったイエスを見て、御前に身をかがめ、信仰を言い表しましょう。(ヨハネ20:28)「わたしの主、わたしの神よ」と。



イエスは主であり、神です。このお方は礼拝されるべきお方です。

私たち人間からも、御使いたちからも、礼拝されるべきお方です。ヘブル1:6-8で、著者はこう宣言します。「1:6 更にまた、神はその長子をこの世界に送るとき、／「神の天使たちは皆、彼を礼拝せよ」と言



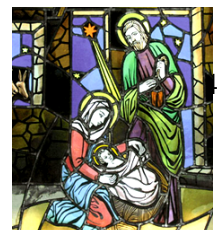
われました。1:7 また、天使たちに関しては、／「神は、その天使たちを風とし、／御自分に仕える者たちを燃える炎とする」と言われ、1:8 一方、御子に向かっては、こう言われました。「神よ、あなたの玉座は永遠に続き、／また、公正の笏が御国の笏である。」

ヘブル書の著者は、イエスが神であると明言します。しかし、これはここで初めて語られたことではありません。実は、このみことばは詩篇45:6からの引用です。その個所で、詩篇の著者は、来たるメシアについての預言を語っています。まさに、イエスはメシアであり、主です。すべての被造物の神です。

IV. 結び

2000年前、イスラエルの民はメシアの来臨を待ち望んでいました。しかし、そのお方が現れたとき、多くのユダヤ人はそのお方に気づきませんでした。主が身分を低くして来られたからです。人々が期待していたのは、勝利をもたらす王なるメシア、彼らの土地からローマ人を追い払ってくれるメシアでした。一方、神のご計画はそうではありませんでした。イエスは絶大な権力と力を持って来ることを選ばれませんでした。ご自身を低くし、私たちの罪の代価を払ういけにえとして命をささげてくださいました。つまり、力で支配する支配者が私たちに必要ではないことを、神はご存知だったのです。私たちに必要なのは、罪の赦しでした。神に近づくのを妨げるのが私たちの罪だからです。神はイエスによってその必要を満たしてくださいました。イエスは私たちにとって、祝福に満ちた希望です。2000年前に一度来られた主は、再び来られます。そして、すべてのものをあるべき姿にされます。

クリスマス・イルミネーションやサンタクロース、クリスマスツリーを楽しむのはおおいに結構です。そうやって楽しむ中で、この季節はイエスを祝うためであることを私たちがいつも覚えていきますように。イエスは唯一の救い主です。道であり、真理であ



り、命です。

最後にマタイ1:23を読んで終わらしましょう。「『見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。』この名は、『神は我々と共におられる』という意味である。」

V. 祈り